＜今日の説教のポイント　ルカによる福音書23章35-43節　②　＞

1　「救われる」(35,37,39)で何を考えるか。

イエス様をあざ笑う人たちはそろって、「神からのメシア（救い主）だと言うなら、自分を救ってみろ」と言います(35,37,39)。彼らは皆、「十字架に架けられた状態は不幸で、惨めな、救われていない状態」と考えていたわけです。しかし、それは人間の勝手な思い巡らしであり、神様がこのことに込められた大きな恵み、すなわち、神の御子に人間の罪の重荷を代わって負わせて救いの道を開いて下さったことなど、全く思いもよらなかったのです(イザヤ書 53:4-5)。また、この言葉は荒れ野でイエス様を誘惑した悪魔の言葉を思い出します(ルカ 4:9-12)。よって、私たちはこの時のイエス様の姿から、「救いとは何か、救われた状態とはどういう状態か、試練をどう考えるべきか」等、色々大事なことについて考えさせられるのです（ヨハネ 16:33)。

2 神様によってイエス様に導かれた死刑囚からしっかり学ぶ。

イエス様をあざけった死刑囚をたしなめたもう一人の死刑囚の言動は信仰者として学ばされることが満載です。なぜ彼が地上での最後の瞬間にここまで深く理解でき、信仰の目を開くことができたのかは私たちには分かりませんし、それでいいのです。なぜなら、大事なことは、これ（神様がなされた恵の意味を深く理解すること）が起きたという事実であり、それは私たちにも起きる（神様が起こされる）可能性があると思っていいということになるからです！ よって、ここで大事なことは、学ぶべきこと満載のこの死刑囚の言動からしっかり学ぶということです。それを箇条書きで記しますと、①自分が犯した罪の大きさを自覚した。よって、その罪の報いを受けるのは当然と理解した。40 節。②しかし、この方は違う（罪を犯していない）ことを理解した。41 節。③だのに死んで下さることには何か大きな意味があることを理解し、この方こそ神からの救い主（メシア）であると確信し、この方に期待した。つまり、この方が死なれた先に待つ御国に期待を寄せた。42 節。④以上のことをもって、イエス様は即座に彼を受け入れられた。43 節。　　この世での試練（苦しみ、死）がなくなるわけではありません。しかし彼は確かに「主にある平安」の中を今から歩み始めたのです。「救われた」で考えるべき内容がここにあります。